

## 5. 予算および主要事業

### 水産試験場

事業名	平成16年度予算(当初)
水産試験場運営費	31,785千円
試験研究調査費	21,569
(アユの冷水病対策研究費)	(4,258)
(琵琶湖生態系修復総合対策研究費)	(8,881)
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費)	(2,464)
(有害外来魚撲滅対策研究費)	(935)
(増養殖技術研究費)	(2,050)
(漁況予報調査研究費)	(1,687)
(漁場環境調査研究費)	(1,139)
水産技術普及指導費	155
職員費	234,357
計	287,711千円

### 水産課計上分

事業名	平成16年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	2,040千円
淡水真珠振興対策費	1,630
栽培漁業総合推進事業費	1,720
漁場環境保全対策事業費	751
水産有害生物対策事業費	8,000
(生態系修復対策事業費)	(3,000)
(外来魚駆除技術事業化試験費)	(5,000)
養殖漁業振興事業費	13,829
流通加工対策費	14,719
(冷水病保菌検査体制整備事業)	(10,219)
(高種苗性アユ放流技術開発事業)	(4,500)
計	42,689千円

### 農村整備課計上分

事業名	平成16年度予算
生き物共生型水路推進調査費	507千円
計	507千円

平成 16 年 度 主 要 事 業 一 覧 表

事 業 名	事 業 概 要
アユの冷水病対策研究費	天然水域や養殖場におけるアユの冷水病等による魚病被害を軽減するため、魚病発生の実態調査やワクチンの開発を主体にした重要疾病（冷水病、シュードモナス病等）に対する予防治療対策試験を実施した。
琵琶湖生態系修復総合対策研究費 ・生物多様性モニタリング調査 ・環境保全型栽培技術効率化研究 ・沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ・栽培対象魚の遺伝的多様性研究	琵琶湖漁業の生産基盤である琵琶湖の生態系を、生物多様性(種多様性・遺伝子多様性)に配慮して総合的に修復するための技術開発研究に取り組んだ。 (1) 温水性魚類の初期減耗要因解明研究 (2) 琵琶湖に生息する貝類の生息状況調査 (3) 内湖の漁場環境修復による種苗育成状況モニタリング (4) 底質改良水域における効果調査 (1) 環境保全型魚貝類の生産技術開発研究(ワタカ) (2) 飼餌料の生産と培養技術開発(ソボウムシの連続培養等) (1) 水位変動が温水性魚類に及ぼす影響調査 (2) 増殖場の有効活用調査研究 (1) ニゴロブナの遺伝的多様性の確認調査
琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費	近年の漁場環境は、漁網の汚れ、プランクトンの異常繁殖、水草の増加等著しい変化が生じている。このため、漁場環境の実態を把握するとともに、その変動原因の解明に努めた。
有害外来魚撲滅対策研究費	捕獲駆除によって生息量が減少した時点でのオオクチバスの根絶方法として、漁業者等によって行えるオス親魚の簡便で有効な避妊技術を検討した。
増養殖技術研究費	重要魚貝類の増養殖に関わる技術開発や利用加工研究を実施した。
漁場環境調査研究費	漁場環境の動向を定期的に把握するとともに、突発的なプランクトン異常発生や魚介類の異常斃死事故等に対応し、原因の究明に努めた。 (1) 主要漁場環境動向調査 1) 汚濁水流出状況調査 2) 琵琶湖定点定期観測 (2) 漁場環境保全対策研究
漁況予報調査研究費	琵琶湖産アユの資源状態を的確に把握し、精度の高い漁況予報を行うため、毎年継続して漁獲状況、産卵、ヒウオ生息量等の各調査を実施した。
栽培漁業総合推進事業費* (多面的資源管理推進調査事業)	琵琶湖漁業にとって最重要魚貝類であるニゴロブナ、ホンモロコおよびセタシジミの資源を維持しつつ、継続的かつ効率的な漁獲を行うために、漁業者による自主管理を推進するための基礎的資料の収集と調査研究を行った。
水産有害生物対策事業費* (生態系修復対策事業) (外来魚駆除技術事業化試験)	漁業の生産基盤となる琵琶湖本来の生態系を取り戻すため、ワタカ、ゲンゴロウブナの種苗を外来魚の駆除が積極的に実施されている水域へ放流した。 近年の琵琶湖ではブルーギルが異常繁殖し、水産資源を食害し、生態系の攪乱原因となっているため、国庫委託を受けてブルーギル等外来魚の影響を評価し、その効果的な駆除方法を検討している。
養殖漁業振興事業費*	養殖衛生管理体制整備事業に基づき、防疫対策会議や魚病講習会を開催し、防疫対策を推進するとともに、養殖場を巡回して医薬品の適正な使用や魚病知識の啓蒙普及活動を実施した。さらに、県内でも突如発生した特定疾病「コイヘルペスウイルス(KHV)病」のまん延防止のために、主にコイ取り扱い業者と天然水域での魚病調査と保菌検査を全力で実施した。
コイヘルペスウイルス病対策緊急研究事業費*	持続的養殖生産確保法において特定疾病に指定されているKHV病が琵琶湖で発生まん延し、10万尾以上の大型のコイが斃死回収された。このため、大型コイだけが斃死回収される原因調査の実施と多量のコイが琵琶湖で果たしていた生態的役割とその喪失影響について検討した。また、コイ資源の回復のための種苗生産用親魚を収集した。

注) \*印は本課予算